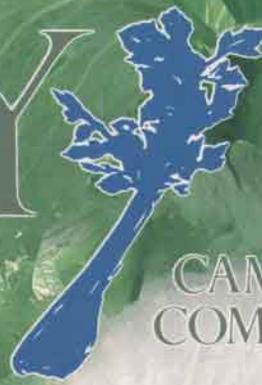


# CELERY



No.11  
1992

CAMPUS  
COMMUNICATION

新たな出会いに  
未来を感じています。

# 卒業

ここまでやったら悔いはない。明日からはまた新たな一歩を踏み出すだけ。希望に向かって。

## 明日へジャンプ

短大 食物栄養科二年  
林田 由美子



月日がたつのは早いもので、もう卒業の日を迎えました。「栄養士になり

たい」という希望もかない、四月からは新社会人として頑張っていくつもりです。

振り返ってみると、この二年間は大変充実したものでした。様々な専門科目は、栄養士免許の取得のためだけでなく、女性らしさを磨き、将来家庭をもち母親となつたときにも役に立つ事ばかりであったと思います。例えば、調理実習では庖丁の扱い方や味つけの基本を覚えることができたし、普段あまりすることのない魚の三枚おろしや会席料理づくりなど、貴重な体験もできました。

また、毎日ある班行動の実験・実習ではチームワークの大切さも学び、社会人になつたときに

## 挑戦

短大 家政科二年  
安部 光代



とうとう学生という名の肩書きから卒業していきます。

私は今年二十

歳の節目として、鹿児島県の指宿市でフルマラソンに挑戦して来ました。走っている間中村での色々な事を思い出しました。真新しい制服を着て中村の門をくぐつたのが昨日のことのように思われます。「大学」という言葉がどこか自由で今までの自分を変えてくれるようにワクワクしていました。事実一年のときは何もかもが初めてで講義も興味深い内容で新鮮でした。二年になり「就職」という大きな人生の選択がやってきました。今まで私は何を考えていたのか、これから何をしてみようか、どんな事が私に合うのか、様々な角度からじっくり自分という個体を見つめ直すことの出来た大切な時期

## 12+2

短大 幼児教育科二年  
樋口 祐子



生徒・学生という特権の付いた十四年間もあと僅かで終ろうとしている。生徒だからしなければならぬ事を

十二年間で、学生だから出来る事を短大生活の二年間でやってきた様な気がする。「あなたは短大生活で何をしましたか?」と聞かれれば私は延々と話したさう。

短大時代に経験した事は、私のかけがえない思い出であり一番誇りに思う事だ。まさに学生だから出来た事ばかり。大学に入りサークルという輪の中でいろいろな人と出会った。得たものもあるが忘れてきたものもある。多くの友達に恵まれ、人とふれあうことの素晴らしさを実感できた事は、サークルに入つて得た一番の宝物だ。また、今までの行動範囲の狭さを気づいた場でもあった。やりたい

## 本当に大切なもの

大学 食物栄養学専攻四年  
五十川 智子



私は二年生の時に学友自治会で会計を担当していた。自治会の役割が、学生

と学校側とのパイプであるため、多くの人と知りあえた。その大半がサークルのリーダーで、自分の意見を持ち、主張し、自分が熟慮できるものを持っていて、彼らと接する事で私は刺激を受けた。それと同時に、困惑した。彼らに比べて私は何だろ。何も無い。責任を持たされても、満足のいく仕事ができない。ただ漠然と日々を過ごしながら、私は焦っていた。

そんな時に、他の問題も加わって、立ち上がれなくなるほど落ち込んでしまった。今まで生きてきてこれだけ悩んだ事はない、と言いつけるくらい悩んだ。自分の納得できる答えを出したくても、答えが出ない。一つの答えが出ても

## 四年間の財産

大学 児童学専攻四年  
城田 容子



私にとってのこの四年間はとても賢沢で有意義な時間だったと言える。何故

ならば、この四年間で幾つもの大切なものと出会い、それと真正面からぶつかり合ってきたからだ。

私は幼い頃から保母か幼稚園の先生になりたくてこの大学へ入学した。詰め込めだけの勉強でなく実習を通して仕事の厳しさを体験し、責任の重さを実感し、この職業に対する気持ちが憧れから目標へと変わっていった。この職業との出会いはとても大きな意味があったと思う。

「大切なもの 2」  
大学に入学してすぐにアマチュア劇団に入団することにした。年に二回の公演のため日曜・祝日はもちろん平日も講義が終わったら

役に立つのではないかと思えます。

勉強以外で多くを学んだのがサークル活動でした。私は「中村SPRINGS」(男女あわせて約四十名。福岡学生バスケットボール愛好会連盟に加盟)に入り、十大学十一チームで二年一回のリーグ戦を行ってきました。我が中村スプリングスは昨年度、今年度と女子二連覇を果たし、目下、十七試合連続勝利と記録を伸ばしています。

私は約一年間、合宿担当として夏と冬年二回の合宿計画、運営にあたりました。他の大学と共に活動することから人間関係などの苦労もありましたが、得たものの方が数段も大きく、私にとって大きな自信と財産になりました。

卒業にあたって、こういう素晴らしい二年間を与えてくれた両親や友人、それに恩師や先輩方に感謝するとともに、在校生の皆さんや、今年入学される新入生の皆さんにも、この短大で過ごす二年間を充実し、充実した二年間にしたいと思いたいです。



SPRINGSのメンバーと

だつたと思います。

自分のことが一段落すると、今度は年に一度の学園祭がやってきました。私たちは三成先生の第一期ゼミ生として食品バザー(ピザトースト)に挑戦しました。初めは何となく「できるんじゃない」という軽い気持ちで参加したのですが、いざやってみると計画や準備に戸惑い、思うように進まず、学園祭が近づくと失敗する事ばかり考えていました。嵐のように去っていった当日も、終わってみれば集団給食を作ることすら初めてだった二十数名の笑顔の奥に「充実」という文字が見えてくるかのようにでした。あのときの周囲の方々の協力があつたからこそ、私たちは一丸となって初挑戦することができ、充実感を味わうことができたと思います。

これからは自らか選んだ道へ足を踏み入れます。踏まれても踏まれても立ち上がる強い雑草になりたいものです。

振り返ってみると、長いようで短かった二年間でした。今、私は多くの先生方や友人にめぐりあうことのできた母校に、そして両親に感謝したい気持ちでいっぱいです。



ホノルルマラソンにも出場

事を追いかけたおかげで十二年間のまともな二年間で濃縮したとも充実した学生生活となった。自宅生でありながら帰りが毎日のように遅くなり母にかばってもらった時もあった。「サークルをやめなさい!!」と言われながらも続けられた環境に感謝している。卒業を前に悲しい、寂しいという気持ちは殆どない。満足感でいっぱい。

合同コースホステルクラブの部屋にある真っ赤な椅子と窓から見える真っ赤な夕焼けは私の目に焼きついている。

十四年間に会った恩師、友達そして大学に行かせてくれた最愛の両親、兄に深く感謝します。

社会人になり学生生活で忘れてきたものを取り戻していこう、そしてできる限りの親孝行をしようと思う。学生時代の初々しさを失わずに……。



楽しいY・Hクラブの仲間たちと

また他の問題が出てきて元の状態に引き戻される。その繰り返しだった。私は全く自信を失ってしまいい、何事も前向きに考える事ができなくなつた。何カ月もそういう状態が続いた。そこから抜け出させてくれたのは、古からの友人だった。遠く離れているのに度々連絡をくれては、励ましてくれた。私は涙が出る程うれしかったし、友人に感謝した。

それから私は、興味のある事は何でもやり、自分の趣味に没頭し本をたくさん読んだ。そうしているうちに、段々自分の本当にやりたい事が見えてきた。この時、私は楽しくてたまらなかつたし、徹夜もつらくなかつた。失敗しても次のチャンスに燃えた。一つやり遂げる度に、一つハードルを乗り越えていく自分をはつきりと感じていた。自分に自信が持てるようになったのだ。

私は自分にとって本当に大切なものに気づき、そのためにがむしやになれたあの時期とあの友へをきつと一生忘れないと思う。



自治会主催運動会の一コマ

これから何かあると自分の弱さに負けず、突き進んで行きたい。強くなりた。今、心の底からそう思う。

稽古場に直行という生活を四年間続けてきたのである。生活のリズムも本番直前になるとくずれがちになるのが両親をはじめ多くの人に心配をかけてきた。しかし、私はこの劇団での経験は、この時期の私でなければ出来なかつただろうと思っている。めちゃくちゃに団員と喧嘩をしたり、自分の弱い所や弱い所をはつきりと指摘され落ち込んだり。そうしているうちに変な見栄やプライドが消え、少しずつ自信を持てるようになってきた。もう抜けられない「面白芝居地獄」の入口はこの四年間だった。

私の四年間は将来の目標と芝居抜きには充実出来なかつただろう。将来の目標については、膝の故障の治療が長期間かかることから断念する事になってしまったが、大学での経験は忘れられないものになった。そして、この二つにより大きな刺激や影響を与えてくれた沢山の先生方、先輩方、仲間たちは私の一生の財産である。



劇団公演ポスターの写真

# 新卒業生の皆さんへ

一心と態度を大切に

学長 山元寅男



中村学園大学ならびに短期大学を本年卒業される皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。皆さんの本学での最後の一年間は、国内はもとより国外でも目まぐるしく変わる激動の時期でありました。国内ではバブル経済の破綻に伴ういろいろの社会の変化、学校教育法の改正に伴う大学教育の変革、国外にあっては湾岸戦争と巨大国家ソビエト連邦の崩壊など枚挙に暇がない程でありました。このような世界や国内社会の変動を目のあたりにしながら、皆さんは本学を巣立っていかれるわけでありませぬ。

このような状況の中にあっても、皆さんはご家族の暖かい庇護のもと、大学で存分に勉強し知識と技術と心とを学び修得することに専念できましたことを感謝しなければなりません。これまで、大学という特殊な環境の中で、先生がたから懇切な指導と手助けを受けてこられたわけですが、社会に出ていけば大学時代のようにはいかす、自ら一人立ちすることが求められます。社会は、皆さんを受け入れるのに、大学とはちがってさ程甘くないといつことを銘記して欲しいと思います。激動の世の荒波を一人でしっかりと漕いで乗り切る気概をもって欲しいと思います。わが学園中村ハル先生は、「努力の上に花が咲く」といつご教訓を残されました。これ

こそは、この変転のはげしい社会に巣立っていかれる皆さんへの最高の花むけの言葉であります。皆さんが大学で学び習得された知識や技術は膨大な知識技術体系のほんの一部にしか過ぎませんが、しかし基礎的なきわめて大事なものであります。これらの基礎的な知識と技術は、皆さんが実社会の生活を始めるに必要となる骨組となるもので、これから先、自ら学び経験を積み重ねながら肉付けをしていかなければなりません。そうすればこそ一人前のスペシャリストとして社会に通用するようになり、それぞれの分野での指導者となることもできるであろうと思えます。専門分野での学問の進歩はまことに目ざましく、常に新しい知識を、そして、技術を習得しないと自分自身世の中の進歩についていけなくなりませぬ。たえず生涯学習に向け積極的心構えを持つことが大切であります。

知識と技術の他に、恐らくは、それ以上に大切なものは人として、あるいは専門家としての心と態度であります。皆さんは、大学の授業であるいは実験、実習で、先生がたから知らず知らずのうちに学ばれたでしょうし、また、学外実習において、皆さんが出会った多くの人々とのふれ合いから、そして、課外活動を通じての学友との交りから、多くの心と態度を学ばれたことと思えます。皆さん

が社会に出られると、決して一匹狼では生きていくことが不可能であります。多くの周囲の人々とのふれ合い、助け合い、思いやり、協調などなくては孤立化の道をたどることになり、淋しい人生を送らねばならないでしょう。常に自己研鑽の態度を忘れることなく、仕事に励んで頂きたいと思えます。社会に出て、それぞれの専門家としての職につかれるとしても、あるいは、専門以外の分野、さらには、家庭に入られるにしても、皆さんが大学生の間に得られた好奇心、未知なるものに対する知的好奇心を常に持ちつづけるといふ態度が皆さんをより向上させる原動力であると信じます。

さて、先にも述べましたように、本年度は学校教育法が一部改正になり、大学の卒業生には学士という学位を授与することになりました。従来は、学位といえば大学院の課程を修了した人に授与される修士、あるいは、博士を意味したものでしたが、今年度からは学士も学位とすることになったのであります。また、短期大学の卒業生には、準学士という称号を使用できることになりました。これらのことは、皆さんがそれぞれ一定の学問を修めた事を社会的に認められたことを意味するものであります。したがって、皆さん

んは、これらの社会的認知に恥じないよう知識と技術と態度の向上に努力していかねばなりません。今度の改正で、短期大学の卒業生は、社会に出たと、大学で所定の単位を取得すれば、学位授与機構を通じて学士の学位を受けることもできるようになりました。また、大学の卒業生や前記の学位授与機構から学士の学位を授与された方々が、更に高度の勉強を希望される場合には大学院に入学して研究を進展させることもできます。学士の学位取得後、社会人となられても、仕事をされる傍ら、大学院に入学しなくても、大学院で所定の単位を少しずつでも取得し、研究論文を提出し、所定の試験に合格すれば、修士、あるいは、博士の学位も、学位授与機構を通じて取得が可能となりました。このように、わが国の教育研究体系も広く社会に開かれてきたので、これから先、皆さんが望まれるときには、大いに活用されるよう期待致します。

本学は、これまでに多数の卒業生を送り出してきました。学園祖中村ハル先生の建学の精神に培われた素晴らしい学風の中、専門的な知識・技術そして豊かな人間性を習得されてきた皆さんの先輩は社会のあらゆる分野で高い評価と信頼をうけておられます。このような先輩の後に続き、歴史と伝統のある本学に学んだことを誇りとして、自信をもって活躍下さるよう切に願って止みませぬ。

## 参画的な学びの場の創造

福岡SANKAKU-JUKUの活動実践より

児童学科・児童学専攻四年

山口ふみ

私たち五人の塾生が、大学入学直後に『学生参画授業』に出逢ってから、もう四年の歳月が流れてしまいました。この『学生参画授業』は、学生が、その企画から実行・評価・伝承まで参加するというユニークな方式で進められます。この授業方式は、現在武蔵大 学助教教授の林義樹先生が、私たちの中村学園での十年間の実践の中から理論的に体系化されたもので、日本各地で少しずつ支持者が増えてきていますが、本学がその発祥の地といえます。

その後、私たちはスチューデントワーカーという後輩の学生の学習の援助者しながら、先生と共に授業開発に関わってきました。昨年四月に自ら学外に参画的な学びの場を創りました。それが私たちの福岡SANKAKU-JUKUなのです。

これまでの四年間の参画的な学びを通して痛感していることを、大学の授業の在り方に絞って提案させて頂きます。フォロワーの意見をボトムアップしながら「ひと仕事」をこなせる参画的な学生リーダーの育成が必要である。(府高優子) 学生自らが、「授業を通じての学びの文化」を創りあげるためには、教師と学生との「中間援助者となる学生」を養成する必要があります。(岸川恵理) 学生・大学・現場・地域の力を結集して、教師にならない人も包み込

んで、大学教育としての新しい発想の実習教育の開発が必要である。(川崎聖子) これからの大学教育の現場においては、学生の自己の内面の変革にせまる自己開発と外部にシステムを創り出す環境開発の両面にバランスのとれた開発力教育が必要である。(山口ふみ) 学生が授業以外の場において、自ら習得した学びを授業に持ち込める授業を開発して、各大学で独自の学問おこしを行うべきである。(竹迫和代)



これから私たち卒業生五人は、塾での学びの志を胸に、うち四人は大学院に進学し、『参画』を学問的に深め、もう一人はラベル思考のコンピュータ化にチャレンジ

私たちが、今二つの活動目標を掲げました。塾の組織的な枠組みを開発しつつ、構成員の自己変革も促すような「参画システム」の具現化と、「ひと仕事」の達成を通じての、塾生同士の学びあいによる自己成長です。

以上を目標を達成するための活動のコアとなる、三つのプロジェクト

現在、私たち塾生十四名は、塾費と、企業や支援者の方々からの浄財で、年間約二百五十万円程度の予算を使って、事務所を開設して活動しています。

さて、卒業する私たち五人が、

Table with 3 columns: 年月日, 概要, 場所. It lists various activities and events from 1991, such as seminars, conferences, and presentations.

# 平成三年度 学園祭を終えて

食物栄養学科・食物栄養科 教授 藤田 守



平成三年十月十日は、中村学園大学・短期大学の学園祭（霜月祭）の最終日であった。正面玄関前には、今年

の統一テーマ「穀やぶりの」で勝負と書かれた立体文字と、スパーマンに似た本学の学生らしき男が、段を破って飛び出している立体絵画のシンボルタワーが設置されている。天候にも恵まれ、家族連れや小学生から大学生、一般人でキャンパスは賑わい、展示・イベント会場やトラディショナル食品バザー会場などの人出は初日、二日目を大幅に上回っている。

カラリアナリストの下池涼子先生の講演会もほぼ満席。午後からのKANのコンサートには早朝よりファンが押しかけ、地元の城南高校出身とはいえ、彼の人気に驚いたが、人気上昇中のアーティストをほぼ一年前から安い出演料で予約していた学園祭実行委員（学生）には恐れ入った。（その後、KANはレコード大賞を受賞し、NHKの紅白にも出場した）

コンサート、フォークダンスと終了し、遂にフィナーレを迎えた。ダイナミック（動的）な音響と共に、レーザー光線が体育館の天井や壁面にファンタジックな模様を描き、スビルパークの世界を思い起こさせた。スペースの中で酔いしれていると、会場は一転し、暗闇のステージの片隅から、スタティックなピアノ演奏が始まった。この両者のコントラストの「妙」が心憎い程素晴らしい。

最後に、キャンドルの灯が消えて、三日間にわたる若者の祭典が終った。その瞬間から学園祭に参加・協力した学生全員が互いに手を握り、抱き合い、感激に浸り、目には涙があふれ、彼等の顔は、一年間、それぞれのパートで独創的なアイデアを出し、計画を練り、実行し、学園祭を成功裏に終らせたという満足感と安堵感に満ちあふれていた。

これまで私の脳裏には、本学の学生は非常に真面目だが、地味で没個性的で、女子学生が多いにもかかわらず、「華」がやや不足しているように写っていたのだが、祭の幕が降りた時から私の考えは変わった。本学には個性的で、それぞれ魅力を持った学生が多数存在しているということである。

この発見は、私にとって学生の教育と研究を行ううえで大きな希望となっている。学生と教職員が互いに信頼し、共栄関係を築き、

さらに、グローバルに考え、卒業生・法人・その他関係者を含めたヒューマンネットワークの中で、人間性と創造性の豊かな魅力ある学生を育てたいものである。

また本学も大学院やアニマルセンターなどが出来、成長著しい感じがするが、世の中の変化に無理なく適応するために、学園祭を始め、大学関係も、建学の精神をふまえて、新しい秩序（NEW ORDER）が必要ではなからうか？

思い起こせば、私は平成三年四月一日に本学に赴任し、わずか二カ月足らずで学園祭の大学側の責任者である委員長に決められてしまった。何んという無謀な人事であらうかと、思った次第である。幸い、吉岡、三成、佐藤、中野と、各委員の先生方との協力を得たので頑張る事にした。

これまでの、本学および他大学の学園祭の情報を集め、長所と短所を分析したうえで、本学の学園祭における基本的精神に、現代の若い力と鋭い感覚をつまみ組み込ませるために、学生の「自主性」を重んじ、一人ひとりが思い切ったチャレンジ出来るような学園祭を目指した。そうすることで平素の大学キャンパスに、より一層活気がみなぎると思っただけである。

学園祭の後始末が終了、新年を迎え、新旧学園祭実行委員より学園祭関係の教職員と共に、「ハートランド」というレストランに招かれ、学園祭の話題を肴にして、

格別うまいビールを飲み干した。今となっては、これも新任早々、

## 効果的なトレーニング法をさぐる

― 九電エマラソン部員の体力を測定 ―

十一月三十日、西四号館の健康増進センターで、センター長の松本嘉吉教授（体育学）と今村英夫教授（運動生理学）の指導により（株）九電エマラソン部員の体力測定が行われた。同部に対しては一昨年から城田知子助教教授（栄養指導）が食生活面からアドバイスを行ってきたが、マラソンランナーに必要な持久力を高めるための科学的な運動指導もできたこと、今回の体力測定になった。

この日利用した測定器具は、センター自慢の「エアロビックキャパシティシステムML1400・エクササイズバイク」。ペダルを一定時間漕ぐ間に、脈拍・心電図・血圧とともに最大酸素摂取量を測定できる。最大酸素摂取量の数値がランナーの持久力の目安になる。問診票の記入を終えた選手から一人ずつ測定を行った。普通二十代の男性だと最大酸素摂取量は40ml/分が平均値だが、全国的にも一流ランナーがそろっているだけに、数値は50、60と上がっている。測定を補助していた今村ゼミの学生も驚きの声をあげていた。この日測定されたデータは今後の指導に生かされていく。



高齢化社会を迎えた日本が、今後ますます必要とする健康づくりの拠点として、本学の健康増進センターは今後も重要な責任を担っていく。

# オーストラリアの大学事情

家政科 教授 西岡 弘 晃

私は平成三年十一月末から約一カ月、オーストラリア国立大学の招聘を受けてキャンベラに滞在しました。「中国および日本における環境史研究プロジェクト」の中心に据えられた中国水利史研究の基調講演と文献目録作成準備が私に与えられた仕事でしたが、ここではオーストラリアの大学事情について見聞したことを書いてみたいと思います。

オーストラリアの有名大学は、メルボルン大学、クイーンズランド大学、シドニー大学などほとんど州立ですが、オーストラリア国立大学は名前が示すように同国唯一の国立大学で首都キャンベラに所在しています。緑の木立に蔽われた広大なキャンパス、そこに点在する建物や彫塑群などが醸し出す雰囲気は知的活動への意欲をかきたせてくれるのに十分です。

た。大学図書館は学内に八箇所もあり、近くにある国立図書館も大規模で自由図書庫まで入って利用できるシステムになっています。研究体制は申し分ありませんでした。日本で刊行されている学術図書・雑誌類もほぼ網羅的に揃っていて、その充実ぶりは目を驚かすものがありました。

私を招いてくれた「太平洋およびアジア史研究所」は大学院専門組織で研究スタッフは世界中から集まっており、研究レベルも世界の最高水準にあります。十一月末学生の試験終了とともに研究活動が全開したようでした。このプロジェクトでもユニークな研究がなされています。例えば、リモート・センシングを利用して杭州湾の地形をコンピュータで分析し、歴史地図と比較し、文献研究の成果を裏付ける仕事などは世界初の試

みとして注目されています。また、この大学で特筆すべき研究は、オーストラリア原住民であるアボリジニに関する総合的研究です。かれらは十八世紀末イギリスによる植民地化が始まって以来、「進化した原始人」と呼ばれながら入植者との闘争に破れて土地を追われていきました。一八三〇年代に入ると、原住民保護の名目のもとに隔離政策がとられるようになり、現在、全土の約三百五十箇所に、十六万人強の人々が生活しています。これは国民総人口比約一・二％にあたりますが、ほんの二十数年前までは、かれらはオーストラリアの人口にも含まれていなかったし、もちろん選挙権もありませんでした。今では法律上の差別こそなくなりませんが、現実には教育、雇用、住宅、保健などさまざまな面でかなりの差があるの否定できません。この大学では、学芸学部の中にアボリジニ学専攻があり、歴史・言語・音楽、国家のアボリジニ政策、

現代の社会問題等々の科目が開講されています。この上に大学院での研究・教育が行なわれていますが、文化人類学・生態人類学的方法で非常に活発に研究が行なわれています。近年は、かれらの原住民画がオーストラリアの誇る美術として注目を集めています。キャンベラやメルボルンの国立美術館には広々としたアボリジニ美術工芸の展示室があります。全国各地にもアボリジニ美術館があるようです。かれらの信仰によれば、天地創造の時に神々が旅をして地形をつくり、人間、動物、植物を生み、部族社会もこしらえ、その部族に独特のデザインを授けたり旋を定めたので、各民族は、伝承されてきた自分たちに特有の神々、トーテム、デザインをもつことになったのです。それらを表現した原住民画が、いま芸術的に高く評価されてきています。

私は専門の中国水利史研究の傍ら、同じ研究棟にあった太平洋・アジア地域研究のオーストラリア

における現状についても調べてみました。アボリジニ研究は、オーストラリアがかかっている現代の政治社会問題研究であると同時に、歴史の再検討を迫るという意味も大きいということでした。

最後に、オーストラリアの大学制度について。大部分の学生は、三年間でパス・ディグリーの学位をとって卒業しますが、大学院は四年間のオナーード・ディグリーの学位を持つていなければ入学資格がありません。ただし、最後の一年間の成績優秀者は、修士課程を飛び越えて、博士課程入学が認められるなど複雑な制度になっています。

太平洋・アジア関係学の場合、アメリカ、ヨーロッパからの留学生もいましたが、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、香港、台湾、中国などアジアからの留学生が多く、オーストラリア人を圧倒してこの国の大学が判らないほど国際的雰囲気溢れていました。

# 元気なサークル 硬式テニス部 (8)



「ファイト、ファイト、ファイト」と、かけ声がグラウンドにこだまする。北風が吹き抜けるなか、硬式テニス部はランニングで汗を流している。ランニングが終わったら今度は「ワン、ツー、スリー」とラケットの素振りを開始。

「ランニングと素振りは毎日欠かしません。もっと基礎体力をつけないと、ハードな練習についていけませんからね。それぞれが自分にきびしくすることで部がまとまっていくんですよ」と汗びっしょりになりながらも笑顔でこたえるのは、部長の尾形道子さん（大学・食物栄養学専攻2年）。

練習は、土・日曜を除き毎日行なう。その成果が、昨年秋の九州北部王座団体戦3部で優勝という形であられた。今年から2部に昇格し、一層の期待がかかる。福岡県民体育大会では、石橋淳子さん（食物栄養学専攻4年）が個人戦で優勝を飾った。

「もっと一人一人が自分のレベルアップを目指し、個人戦でも団体戦でも勝ち抜いていくパワーとテクニックに磨きをかけていかないといけませんね」と尾形さん。

目下の悩みは、雨がかりにはコートの水はけが悪いこと。ボールの弾みやステップに影響が出てくるという。

ところで、好きなプレーヤーはだれ？という質問に「男子では、松岡修造選手。それに女子では、ナブラチロワ選手に憧れています」とニコリ。「やはりプロは、スピードや迫力があって、スゴいですね」としきりに感心。

部員たちの明るく、さわやかな姿が夕日をバックに大きく弾んでいる。明日のエースを目指し、全日も鋭いスマッシュがコートに決まる。

# セミナーハウス完成

## 愛称は「ほくさん」

待望のセミナーハウスが完成した。工事着工からおよそ二年、自然の恵み豊かな佐賀県富士町の北山ダム湖畔の一角に完成したこの建物は、暖かな春の日差しと芽ぶきはじめた緑の中で、ひと際目立つ存在となっている。

このセミナーハウスの完成にあたって、本誌第十号でその愛称を募集したところ、延べ二百二十六名の方からの応募があり、慎重に選考した結果、「ほくさん」(ひらがな表記)と命名することに決定した。明るく響きが良いこと、また、その名前から場所がイメージできることがその理由だ。

残念ながら応募いただいた名称には該当するものがなかったため、「HOKUSAN」の案を出された幼児教育科一年生の能勢直子さんと「北山」の案を出された上森学生課係長に、それぞれ二万五千円の謝礼が贈られた。また、全応募者の中から短大食物栄養科二年生の嘉村美穂さんら五名に二万四千分の図書券、大学児童教育学専攻三年細川亮子さんら五名にそれぞれ本学オリジナルレホンカードが贈られた。

「ほくさん」は四月のオープンを間近に控え、最後の調整が行われている。教育活動に親睦に、今後大いに活躍が期待されている。



対岸の児童公園から望む(手前は体育館)

# お知らせ

大学卒業者に  
学士の学位授与

「国立学校設置法及び学校教育法の一部を改正する法律」(平成三年法律第二十三号)が平成三年四月二日に公布され、同年七月一日から施行されました。このことにより、従来称号として位置付けられていた学士は、学位として位置付けられることとなり、大学は学位を卒業した者に対し学士の学位を授与するものとされました。(改正後の学校教育法第六十八条の第二項、改正後の学位規則第二条関係)本学においても平成四年三月卒業生から学士の学位を授与いたしますが、改正法の施行前に既に大学を卒業している者の学士の称号についても、これを学士の学位とみなすこととされており、お知らせいたします。

短期大学卒業者は「準学士」  
「学校教育法等の一部を改正する法律」(平成三年法律第二十五号)が平成三年四月二日に公布され、同年七月一日から施行されました。このことにより、短期大学の卒業者は準学士と称することができることとなりました。(改正後の学校教育法第六十九条の第二項)また、「改正法の施行日前に短期大学を卒業した者も準学士と称することができ」とされており、お知らせいたします。

## 大学紹介 英文パンフ完成

海外との交流が活発になるにつれて本学を紹介するパンフレットの必要性が高まっていたが、この程、英文による大学紹介が完成した。変型A四判二十頁で、落ちついたモノクロ仕様になっている。学園の歴史、大学、短期大学の教育組織、校舎イラスト、学生生活などが簡潔に紹介されている。ご希望の方は庶務課まで。

## ちよひつと

### インタビュー

笠 裕美子さん

**横顔**  
昭和五十年本学児童学科三年生の時結婚のため退学。千葉県で専業主婦として育事に専念。昭和六十二年久留米市の実家(母がわがくさ保育園園長)にUターンし保育士として勤務する一方、平成元年四月児童学科三年次に再入学。妻・母・保母・学生の一々四役を見事にこなすこの春めでたく卒業される。

卒業を迎えて  
本当に楽しくあつという間に三年間が終わってしまいました。若い人たちの考え方や、表現の方法などとても刺激になりました。先生方には多方面においてご指導いただきよかったです。

再入学のきっかけは  
保母資格は大学二年生のときに国家試験で取りました。ですから仕事には支障なかったのですが、もっと広い教養と専門知識を得るため、それと幼稚園一種免許を取得するため再入学しました。



入学してみても  
例えば障害児心理学などの講義も、自分の園の園児と重ね合わせるとよく理解できました。音楽も実技の勉強で吸収するものが多いが多かったと思います。  
苦勞したこと  
時間のやりくりですね。講義のない日は保育園の仕事をして、また幼い子供もいるので子育てや、家庭の仕事も疎かにできないし。卒論を書くときは、子供が眠ってから夜中の三時頃までかかってました。子供から「お母さん、目の下にクマがすすんでるよ」なんて言われたりして、居眠りして電車を乗りすごすこともよくありました。  
後輩に一言  
講義はいつもいけば席の前で聴いていました。教わることは全て吸収しなくてもいいので、絶対に損はありません。学生時代にどれだけ勉強したかは、社会に出た時に結果としてあらわれます。特に専門職を目指す人は、学校で決められた実習だけでなく、自主実習でどんな力をつけるべきです。そうすると応用力が全然違ってきます。  
これからは  
これで止まってしまうってはいけません。保育園という狭い社会に自分を置かず、これからも自分自身に刺激を与えるために

も外に出るといふ気持ちを持ち続けたいですね。また勉強したいことができたなら聴講生としても学びたいですね。

## おめでとうございます

建築物環境衛生功勞者  
厚生大臣表彰  
食物栄養学科・食物栄養科  
石西 伸教授(公衆衛生学)  
西部地区高層建築物衛生管理者  
講習会の会長代行として、二十三年間に亘り合格者認定委員長を継続。その功績により、十一月二十七日、大阪フェスティバルホールにおいて表彰。

## 博士号の学位取得

食物栄養学科・食物栄養科の  
阿部志鷹子助手(循環薬理学)が  
平成三年五月二十四日付で九州大学医学博士の学位を取得。  
学位論文は「豚冠動脈血管平滑筋の細胞質カルシウム濃度と張力に対するニトログリセリンの効果・血管条片のTubulin表面蛍光測定による検討」  
食物栄養学科・食物栄養科の  
吉岡慶子助教(調理学)が、平成四年一月二十八日付で九州大学農学博士の学位を取得。  
学位論文は「生鮮魚と凍結・解凍魚との鑑別法に関する研究」

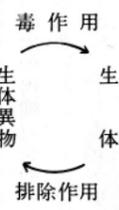
# 大学院紹介(2)

## その生化学的側面

環境栄養学部門

本来安全であるべき食品に、たまたま有害な物質が含まれていたとしたら、過去に起きた多くの化学性食中毒事件は、それによってもたらされる結果の悲惨さを如実に物語っている。昭和三十年、岡山県を中心に調製粉乳による乳児のヒ素中毒事件が発生したが、毒物入りと知るよしもない母は、せめて栄養だけはと、問題の粉乳を細かくわが子に与え続けたという。母親にとってこれ以上の悲惨さがあるであろうか。  
このような例を持ち出すまでもなく、水や空気とともに栄養源として必須の食品に、有害物質が混入するなどもってのほかである。とはいっても、食品成分としては栄養素以外に種々の物質が含まれている。例えばアルカロイド、フラボン、テルペンのような天然由来のものから、食品添加物をはじめ各種環境汚染物質のような人工的物質に至るまで、実に様々な物質が含まれている。天然物であれ人工物であれ、これらの化学物質は生体に必要な成分ではないので、生体異物と総称されている。

通常、これらの食品中の含量は低く、有害作用を生体に及ぼすには至っていないが、ときに含量、あるいは摂取量が増大し、有害反応を惹起する可能性はある。また、これら生体異物の生体に対する作用がすべて熟知されているわけではないので、その点についての理解を深めることも必要であろう。つまり、私達の健康の維持には、適正で過不足のない栄養素の摂取の問題に加え、栄養素ともいわずに生体に入ってくる生体異物についての、毒性的問題の併せ考えることが必須となる。ここで重要なことは、生体異物は生体に作用し種々の毒性を発現するが、生体の方も、侵入した生体異物を速やかに体外に排除しようとする機構を有することである(左図参照)。



この機構のうち最も重要なものが生体異物の代謝である。  
一部を除き大部分の生体異

物は脂溶性の化合物であり、このような化合物は通常、肝臓において代謝され、水溶性化合物となつてはじめて速やかに尿などを介して体外に排泄される。かくして作用部位における生体異物の濃度は低下し、毒作用は(もし可逆的なら)消失する。したがって、このプロセスは解毒反応といふことができる。しかし、代謝されて母化合物に水酸基が導入されたり(酸化)、グルクロン酸や硫酸基が結合したり(抱合反応)して水溶性化合物には変えられても、新構造の代謝物が母化合物より生体に対しかえって強い毒性を発現することも時には起こり得る。このような場合、代謝的活性化と呼ばれる、常識に反する現象ではあるが、実際例は稀ではない。例えばベンゾ(a)ピレンは、そのままでは発がん性はなく、体内で代謝されはじめて強い発がん性を発揮する。

生体異物の中には、きわめて代謝されにくいPCBのような一群の化合物の存在も知られている。このような化合物は容易には体外に排泄されないため、かなり長期間体内に留まるものもある。事実、昭和四十三年夏、西日本一帯に発生した力ネミ油症では、二十年以上を経過する現在においてもなお、微量

の毒性PCDFやPCB異体が患者体内に残留している。生体異物の多くは、強弱の差はあるものの、自分自身の代謝を触媒する酵素を誘導形成する作用をもっている。PCBやPCDFのように、代謝されにくく肝臓に貯留し易い化合物は、この酵素誘導能が特に強い。誘導された酵素は、体内に同時に存在する他の生体異物の代謝を促進し、この場合、もし活性化代謝物が生成される例であれば、酵素誘導を通じて間接的な毒性が発現する可能性もある。また誘導された酵素は、内因性の脂質脂溶性ビタミン、ステロイドホルモン、プロスタノイドなどの代謝にも関与し得るので、長期に亘る特異的な酵素誘導は、これら重要な生体成分の恒常性を長期間乱す可能性もある。

このように、食品中の生体異物は、含量の如何によつては直接的に毒作用を発現することが考えられるが、酵素誘導を介しての間接的毒作用についても、今後新たな配慮が必要となるであろう。  
以上環境栄養学がカバーすべき研究の一端を紹介させて戴いた。学生諸君がこの分野の研究に一層の関心を寄せ、進んでその発展に力を尽されることを期待したい。(教授 吉村英敏)



保健室から

保健室の永代主任は、中村学園に勤務して二十四年のベテラン。昭和四十二年から一貫して保健室から学生を見守り続けてきた。話し好きで面見が良い。さっぱりした気性が学生に親しまれているようだ。

「ホツキス貸して」「消しゴム貸して」「はさみ貸して」……隣りに学生ホールがあるせいか、しょっちゅう学生が入り出す。「頭が痛い」「お腹が痛い」「ヤケドした」学生があわただしく駆け込んで来る。

「調子がよくないので……」いつも誰かがベッドに横になっていいる。ベッドの利用率は、かなり高いとの事。健康状態は日頃の生活態度を反映するので、特に一人暮らしの学生など、ちゃんと食事しているか、生活時間が不規則になっていないか気になるという。

あつからんとして陽気、朝シャンなどで身なりはとても清潔。服の着こなしもいい今の学生。しかし反面、昔の学生に比べてとにかく手がかかる。そして礼儀をあまりわきまえていないのでは……。

## 平成三年度就職状況

平成三年度卒業生(平成四年三月卒業)の就職状況は二月末日現在、下表の通りとなっている。未決定者のうち特に専門職希望の者は、三・四月に求人があることも多く引き続いての求職活動が要求される点、特徴的と言える。したがってまだ途中ではあるが、今年度を振り返って学生課にコメントしてもらった。

〔栄養士関係〕大学食物栄養学科、短大食物栄養科とも栄養士関係の専門職に就く者の割合が減少する傾向にある。特に、短大食物栄養科では実践栄養士コースは専門職に就く者が多かったが、一般栄養士コースでは、ほとんどが事務職に就職するというコースの特色が明確に出ているようだ。

また、専門職の場合でも食品会社の研究開発部門への希望者が多くなっているが、この職種はまだ地場に受け入れの企業が少ないため、地元指向にばかりこだわっていると思うところが見つからず、なかなか厳しい状況である。学生は求人先の待遇面、勤務条件をかなりチェックしているようで、職業人になっても自分のプライベートルな時間を満喫したいという学生のライフスタイルが背景にあるようだ。

〔幼稚園・保育園関係〕昨年は一般企業に就職する学生の割合が多かったが、今年度はバブル経済の崩壊とともに景気がかげりが見え企業の採用も手控えられたためか学生が本来の専門職に戻ってきたようだ。幼保の職場でも週休二日制の導入や勤務条件等待遇の改善が進められている。園での実習がそのまま就職につながるケースも多く、実習に取り組む態度が大切なのはピアノの実力が問われるので、日常おこたりにくく練習しておくことが必要である。

〔一般事務関係〕三年度の就職協定は七月二十日求人票揭示、八月一日会社訪問開始というスケジュールで動き、七・八月の求人票の出足はきわめて好調で学生も選択に迷うほど殺到した。しかし十一月以降求人が急速に終息に向かい早期に内定を得られなかった学生には厳しい状況となった。学生の指向としては知名度が高い大企業、一般事務、完全週休二日、高給、天神・博多駅周辺という希望が多いが、これらの点だけにこだわると現実はずかしい。自分のライフスタイルを考えるとともに、現実を見据えた幅広い企業研究が必要と言える。

平成3年度専攻・科別就職状況

(平成4年2月末日現在)

| 区分 | 専攻・科    | 卒業生数 | 就職しない数 | 就職希望数 | 就職決定数 | 決定率% | 区分   | 専攻・科    | 卒業生数  | 就職しない数 | 就職希望数 | 就職決定数 | 決定率% |
|----|---------|------|--------|-------|-------|------|------|---------|-------|--------|-------|-------|------|
| 大  | 食物栄養学専攻 | 54   | 8      | 46    | 44    | 95.6 | 短期大学 | 食物栄養科   | 246   | 10     | 236   | 208   | 88.1 |
|    | 管理栄養士専攻 | 51   | 3      | 48    | 44    | 91.6 |      | 家政科     | 303   | 9      | 294   | 258   | 87.7 |
|    | 児童学専攻   | 53   | 5      | 48    | 43    | 89.5 |      | 幼児教育科   | 259   | 11     | 248   | 238   | 95.9 |
|    | 児童教育学専攻 | 99   | 40     | 59    | 53    | 89.8 |      | 短大計     | 808   | 30     | 778   | 704   | 90.4 |
|    | 大学計     | 257  | 56     | 201   | 184   | 91.5 |      | 大学・短大合計 | 1,065 | 86     | 979   | 888   | 90.7 |

\* 大学児童教育学専攻のうち次年度以降、教員採用試験に再挑戦する者は、統計上就職しない数に入れた。

## 再見！ふれあいクルーズ福岡

第二十二回福岡県青年の船に参加して

学生課 小川 康 生

私は、昨年十一月二十日から三十日まで十泊十一日の日程で、第二十二回福岡県青年の船(団長・池田幸雄福岡県出納長以下総員三百四十四名)に一般団員として乗船。中華人民共和国・広州市と、香港を訪問しました。

この「福岡県青年の船」は、昭和四十六年の第一回から毎年一回明るくたくましい福岡県青年の育成と、アジアを中心とした国際友好親善を目的として行われている事業です。

十月と十一月の二回の事前研修の後、十一月二十日、博多中央埠頭から最初の訪問地である広州市に向けて出航。途中、船内では、船長主催のウェルカムパーティーやクルーズパフォーマンスといった団員どうしの連携・交流を深めるための催し物が開催され、また小早川明徳・福岡県中小企業経営

者協会専務理事による講演がありさらにそれを受けてのグループディスカッション及びレクチャーパフォーマンスを行うなど、広州入港までの三日間、船酔いすることなく楽しく有意義に過ごしました。

広州市では、中国の芸術品が数多く展示されている陳氏書院、演劇やコンサートの会場である中山記念堂等の参観活動を行いました。またいくつかの小グループに分かれての分団活動では、中国共産党幹部を引退された方々が老後の余暇を過ごすための施設として政府が建てた、広州市老干部活動中心を訪問。さらに、今回の訪問の第一目的でもある中国青年連との交流を、越秀公園内で広州市青年連合会の約三百名の青年連と、踊り、書道、針治療、カラオケ等を通じて行い、また、市郊外にある広州外国語学院の日本語専攻の

学生連とマンツーマン形式で座談会を行いました。私が話をした二年生の板一君は、まだ習い始めて一年半とは思えない程日本語が上手で、将来は通訳もしくは貿易会



青年の船のメンバーと(右端が筆者)

社や旅行会社等への就職を希望していました。現在、生活はあまり楽ではないけれども、アルバイトはほとんどせず勉強に力を入れているとのことでした。

船上交流会終了後、香港の青年連との別れを惜しみながら、船はゆつくりと百万弗と言われる夜景の中を出航し、十一月三十日、無事博多港に帰港しました。私は、今回の青年の船で得た数多くの経験を今後の仕事や生活の中で活かしていくとともに、単なる観光旅行とは違い、人間同志の触れ合いができ、また、草の根外交官として活躍できるこの「福岡県青年の船」のことを広く他の人達へ伝えていきたいと思えます。



二月二十七日、栄養科学研究科主催により、国立水俣病研究センター・生化学室長の安武 章教授が「メチル水銀の生化学的側面」というテーマで講演。(西一号館視聴覚室)



二月十七日、児童学科主催により、久留米大学名誉教授、日本山岳会員の脇坂順一氏が、「心とからだの健康づくり」というテーマで講演。(西一号館大講義室)

## 講演会開かれる

## 子どもの心 (9)

大学付属あさひ幼稚園 園長 白木 静 枝



園長に就任して最初の始業式で「園長先生は幼稚園は初めてだからいろいろ教えてください」と言われたことがずっと幼児のこころに残っている。毎朝9時頃がら「おはようございまーす」と元気な声が響き渡り、子供達が登園してくる。園長は負けじとばかり大きな声で「おはようございまーす」とこたえた。すると、年長組になったばかりのマーくんが「そうじゃないよ園長先生は、ハイ、オハヨウ、でいいとお」と教えてくれた。サンキュウ!!

雨の日は外で遊ばず園長室にも大勢子供がやってくる。「シュリケン作ってください」兜作ってえー」「星とハート作って」と大変な繁盛ぶりである。新聞紙の兜と剣が出来上り、しんくんが喜んでいる。「よく似合うよ、カッコイー」と声をかけていると「園長先生、お友達ができてよかったね」と、かなちゃんが微笑んでいる。心配してくれていたのである。かなちゃん有難う。

秋の白、オリエンテーリングで今宿の野外センターに行った。年長と年中がペアで山に登り、とんぐり拾いをする。山を下りるとゴールイン。園長ががんばり賞を渡す。「おめでとう、よく頑張ったね」と一人一人に賞状を手渡していた。「園長先生は山に行かんかったけん、どんぐりないやろ、僕んと少しあげる」袋の中に腕をつっこんで探っていたゆうくん。丸丸とした掌を広げるとキャップをかぶったどんぐりが4コのとっていた。「ありがとう」ゆうくんにとっては大事な大事なとんぐりなのに……。その優しいこころを大切にしたい。とんぐりをもらって握りしめた。温かった。



出 会 い

大学院栄養科学研究科長  
教授 後藤 昌義



国立大学で四十年間も通してきた世間知らずの私にとって、中村学園との縁、その出会いは全く新鮮な驚き、新しい経験の連続であり、この七年間が夢のように過ぎ去った思いです。

高らかな建学の精神、清潔なキャンパスと制服  
男子学生を主体とした医学部から女子学生を主体とした本学に着任して、見聞きするものすべてが物新しく感じられました。何よりも学生の歓声が一オクターブ以上も高いのですから。  
担当教科も私の専門の生理学ではなくて、臨床栄養(病態栄養)

と病理学であり、それこそ新しい出会いでありました。全く六十の手習いで猛勉強? やつとテキストが書ける程度になりました。

また、たまたま「大学院新設」という本学の飛躍の時代に遭遇し、思いもかけず大学院のお世話をお任せつかるといふ、大きな出会いがありました。

恩師、問田元学長からも、一生に一度位は人のお世話もするものだとお勧めもあり、お引受けした次第でしたが、何しろ不馴れでその資質もなく、ご不満、と批判も多かったと思います。しかし皆様方の格別のご指導、と支援のお蔭で、何とか将来発展の基礎作り、畠作りは出来たかなと自ら慰めている次第です。先日の「修士論文発表審査会」での院生の堂々たる発表は、指導教員のお骨折りもさりながら、最初の大学院の大きな成果であり収穫でありました。

私がニューヨーク州立大学留学当時、師事したブルックス教授は副学長兼、大学院研究科長で、「世界人としての人作り」を信条にしておられました。その二十年前の教訓が、今頃、貴重な参考になるとは夢想だに致しませんでした。独創的な大学院が文字通り栄養科学の西日本の拠点として大きく成長し、学園の誇りにもなりますように心から祈りますとともにまた本学園での数々の新しい出会いが、私の生涯の貴重な糧になり

ましたことを心から厚く御礼申し上げます。お別れの言葉と致します。

教専に生きて十一年

児童学科・幼児教育科  
教授 三原 種晴



月日は音もたてず過ぎ去って十一年。児童教育学専

攻三年一組が平成四年一月十四日、二組が十六日の、「(教)国語」の授業は、私の満五十年に及ぶ教師生活の最終講義となりました。私は、昭和五十六年四月、本学教員に就任、教専第一回生(79E)の指導主任となって迫っている教育実習の実施要領を策定しました。また、初めて挑む教員採用試験に備えて、学生も私も容易ならぬ決意を胸に「たそがれ学習会」に取り組みました。そのため私は直前三カ月間、大学近くに単身下宿、女傑の中野利恵助手や関係の教員の方々と苦業を共にして予期以上の合格率を見ることができたこと、その間の大学側の理解あるご協力など忘れ得ない思い出となりました。その後、教専卒業生の実績が各方面から高く評価されつつあることは嬉しいかぎりです。また、一昨年発足した児童教育懇話会の確かな歩みと発展を心から期待してやみません。私は「心が心に、魂が魂に灯を

ともすることが教育である。」と訴えてきました。では、熱意と愛情だけでやれるかというと、教育の世界ではそうはいきません。「確かな学力をつける専門職としての方法技術を身につけることが必要だ。」また、「言葉を使いこなして、返しく生き抜いていく人間を育てるのが国語科教育だ。」とも語ってきました。

皆様ありがとうございました

児童学科・幼児教育科  
教授 篠原しのぶ



昭和四十二年四月に中村学園大学に奉職致しまして以

来、二十五年の月日が流れました。その間、中村学園大学関係者の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。

平成二年五月末に、辞任のお伺いを申し上げましたところ、快く即座に受け入れていただき、六月の教授会で皆様に公表されました。それ以来約六百三十日、「いずれ去る者」としての皆様方の視線を浴びながらも、このように楽しんでいただけましたのは、私の身近かにいて、陰になりひなたになりしてカバーして下さった方々のお陰だと、誌面をおかりして心より感謝申し上げます。

申し上げます。

中村学園に連なるお一人お一人の今後が、素晴らしい、輝いたものでありますようにと、常に祈らせていただきます。

先生方、事務職員の方々、そして、それぞれの時代の学生の皆様方に育てられて、今日の私があるのだと信じます。この二十五年間を感謝を以てふりかえることが出来ずすることを、この上ない幸せと存じます。

皆様どつぞと健康に留意なさいます。中村学園発展のためにお働き下さいませよう……。

さようなら紫山寮

紫山寮舎監  
片山 千恵子



私が学園の中村ハル先生と初めてお話ししたのは、三浦郡の婦人会の料理講習会に、母の名代で出席した時でした。先生

は独特の博多弁で、栄養と料理について熱く話され、聴衆を魅了されました。私は、その魅力にとりつかれ、中村栄養短大に入學し、昭和三十八年に、学生寮の舎監栄養士として赴任、以後二十九年間勤務いたしました。その頃の寮生が、四十年代、三十年代と続きます。その方達が、昨年の秋から、卒業年次毎に私の新しい門出を祝って、九州一円、関東、関西から集まり、同寮会を開いて下さり、舎監冥利に尽きました。三、四十年代になっても、寮生時代と余り変わらず、笑いさざめき、苦勞話に涙し、励まし合い、感動の日々でございました。これから、私宅を紫山寮同寮会連絡所にして、毎年集まる事になりました。敬愛する中村ハル先生との出逢いで、私の人生が開かれ、よい職場と、上司、同僚に恵まれました。在職中のご指導とご援助を感謝申し上げますと共に、母校の発展と皆様の健康を祈念して、お別れいたします。

旧教職員による

OB会が発足

学校法人中村学園が創立されて今年で三十八年。今や幼稚園から大学院までを擁する総合学園として発展してきた。この陰には、苦しかった学園の草創時代から、かつて学園に勤務し、苦勞を分かちあつてこられた旧教職員多数がおられることを忘れてはならない。こうした旧教職員各位の消息を確認し、親睦を深めるとともに、学園各学校の現状や将来構想を確かめ、ますますの発展に寄与したいと、元学長の原俊之氏ら七名を設立発起人として、十月二十二日にOB会設立総会が開かれた。

総会では会則の審議、役員選出、顧問・参与の推薦等の諸議案が満場一致で承認され、原俊之氏を初代会長とする「中村学園教職員OB会」が発足した。

総会終了後は場所を懇親会場へ移動、約二時間にわたって久闊と昔日の想い出話で盛り上がった。

健康生活のススメ(9)

カルシウムと骨  
食物栄養学科・食物栄養科  
教授 谷口 巳佐子



遠い昔、原生生物が海水の中で発生し、進化し、あるものは陸に上がって生活する様になった。その名残としてヒトを含め生物の体液のイオン組成は海水のものと似ている。しかし細胞内のイオン濃度は体液のものより生物固有である。カルシウム(Ca)は人体構成成分の中で最も多い無機質で、大部分(99.5%)は骨、歯の様な硬組織に含まれ、血液・体液には僅か0.2%以下である。血清のCa濃度は10mg/100ml(2.5x10<sup>-3</sup>M)で一定に保たれている。細胞内の濃度は10<sup>-6</sup>~10<sup>-7</sup>Mで、もし10<sup>-4</sup>M以上に上昇すると細胞は死んでしまう。細胞内外のCa濃度は数千倍もの差がある。血清のCa濃度はホルモンで何時も一定にされていて、細胞内との差は情報となる。食事からのCa量が少ない時、ホルモンの働きで骨からCaの逸脱が起こる。

この様にCaの代謝を考えると、骨はこのイオンの貯蔵庫と言うこともできる。そこでCaの働きと食事からの摂取の2面から生化学的に大切と思われることを簡単にまとめると次のようになる。

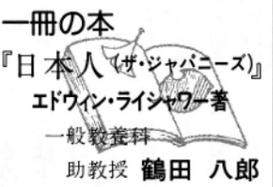
(1) Caの体内分市は大部分は骨、歯である。細胞内にはごく僅かしか含まれていないが、細胞内外の濃度差は酵素活性・代謝調節の情報発現因子として重要である。従って細胞外の濃度は常に一定に調節されていて、もし低下すると骨から溶出される。

(2) 食事として摂られたCaの吸収には活性化されたビタミンDが働く。Dの活性化は年をとると低下する。日本人のCaの摂取量は栄養調査によるとまだ十分でない。発育期の胃、歯が作られる時だけでなく、骨は生きていて絶えずCaは出入りをしているので高齢者も十分な摂取に留意しなければならない。

この本は大学生のみならず一般の人々にとっても日本人を理解するための必読書といえる。日本の社会・伝統・歴史・風俗・文化を明確かつ詳細に述べている良書である。

日本人を画一民族と評し「harmony(調和)」を求め集団志向の強い民族だといふ、社会生活の中にみられる諸現象を、多岐にわたって述べている点が興味深く、教訓的だと思える。

著者は長年日本に住んで教育に携わり、政治、経済、及び文化交流の領域で貢献してきて、日米文化のかけ橋となった。含蓄ある表現の深さは際だっており、中でも「集団」「大衆文化」「言語」「ビジネス」などの章においては大いに考えさせられる。できることなら原文(英語)で読破したいものである。多くの知識を得ることは「国際化」理解の一助になり、ぜひ一読をすすめたい本である。次にその訳(原文の趣きを伝えない)を示す。



教育や経済活動の態様の画一性、それにすべての人々が全国的な網の目の中にしつかと捉えられているという事実に着目すれば、それは明白である。

将来の世界的な方向としての大衆社会現象については、プラスとマイナスの評価がうすまいており、通常はアメリカ力をもってその旗手とみなす風潮がつよいのだが、むしろ現代日本の方がより顕著にその傾向を示しているといえそうである。

国弘正雄訳(文芸春秋社刊) 19章「大衆文化」

